

佐賀新聞に記念誌発行の紹介記事が掲載される

去る11月7日、八田会長、松尾専務と県事務所の吉原所長が佐賀新聞社大阪支社を訪問し、辻正宏支社長に記念誌の発行と、水害被災地への義援金10万円を贈呈いたしました。

その記事が10日の朝刊で紹介されましたのでご報告いたします。

なお、当会のホームページに並んで、「佐賀新聞ニュース」のコラムに『同郷とのつながり支え70年』の記念誌発行の記事も掲載されております。

(事務局)

大阪支社
同郷のつながり支え70年
関西佐賀県人会
記念誌刊部発行



70周年記念誌と災害義援金を贈呈する八田信男会長（左）と松尾正隆専務理事（右）大阪市の佐賀新聞社大阪支社

関西在住の佐賀県出身者でつくる関西佐賀県人会（八田信男会長）が、戦後70周年記念誌を発行した。戦後の復興期から現在まで県出身者のつながりを支えてきた同会の歴史を伝える。

同会は1951（昭和26）年8月に創立し、初代会長は「江崎グリンコ」の創業者の江崎利一氏。昭和20〜40年代は佐賀県からも集団就職で多くの若者が移り住み、就職の世話や生活の支援などに力を注いだ。57（同32）年に「佐賀県関西寮」を開設。記念誌には建設に至る経緯や入寮者の思い出もつづられ、同郷の深いつながりがうかがえる。

今年予定していた70周年の記念式典はコロナ禍でやむなく中止に。来年6月下旬の総会に合わせ改めて開く計画にしている。

11代目の会長となる八田さんは「こうした時代だからこそ、ふるさとがあることの大切さを改めて実感する。時代の変化とともに県人会のニーズも変わってきているが、記念誌が県人会の意義を知ってもらうきっかけになれば」と期待を込める。製作の中心となった松尾正隆専務理事も「歴代の先輩方が築き守ってきた県人会が、若い世代から未来へとつながってほしい」と願う。

記念誌はA4判160ページで1150部を製作。歴代会長の紹介やエピソード、役員、会員の思い出のほか、各行事の記録、役員名簿なども掲載する。

また県人会は、県内の8月の記録的大雨を受けて「ふるさとの復興に少しでも役立ててほしい」と、佐賀善意銀行に義援金10万円を贈った。

(辻正宏)

佐賀2021大雨
 義援金 善意銀行
 0952282153
 7日

佐賀県宅地建物取引業協会佐賀南支部は不動産フェアのチャリティバザーの益金3万5500円▽関西佐賀県人会（八田信男会長）は10万円

累計225件
 2747万4251円